

**E T C の普及、第二世代カーテレマティクス、先進安全装備搭載で動き出した****2003年 I T S 関連市場の調査まとまる**

- クルマ第三の目、CCD車載カメラが2007年90億円市場へ -

マーケティング&コンサルティングの株富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉 TEL:3664-5815)は、「2003年版 I T S 関連市場の現状と将来展望」(A4判286頁)をまとめた。

調査は今年7月~10月にかけて弊社専門調査員が対象企業と関連業界に対する面接調査を中心に、関連文献、データベース分析を加えて行った。この調査は、テレマティクスサービス及びI T S 関連機器・システム・デバイスについて、市場規模推移、マーケットシェア、開発動向、I T S への今後の関わり方・方向性などを明らかにし、こうした事業戦略上の基礎データを提供することを目指した。

**調査の結果****(A) I T S、カーテレマティクス分野の全体市場**

- ・ 02年のI T S市場は1兆2,310億円、07年には2兆円を超える市場になると予測
- ・ E T C 車載器のように普及傾向が出てきたものや、D S R C の応用やミリ波レーダーなど実用化が見えてきた製品が増え始めているため、2007年には2兆円を超える市場になると予測される。

**(B) サービス/製品カテゴリー別市場展望****テレマティクスサービス**

- ・ カーナビ向け通信サービスは1998年頃から各自動車メーカーがサービスを開始したが軌道に乗らなかった。その原因を克服したかたちで、2002年末頃より第2世代のサービスを開始し順調なスタートを切っている。トヨタ「G-BOOK」が一般ユーザーにも認知されるようになってきており、自動車での双方向通信のあり方が示されてきた。
- ・ 双方向通信を取り巻く形で緊急通報サービスや車両盗難防止サービスが普及していくものと考えられ、今後様々なテレマティクスサービスが登場してくると思われる。

**機器/システム**

- ・ E T C 車載器のセットアップ件数が2003年9月に160万件を突破し、E T C 普及の兆しが見えてきた。このE T C に使用されているD S R C を応用したサービスの実験や研究開発が頻繁に行なわれ、実用化が間近となっており、今後このようなサービスに対応できる車載器が登場してくる。
- ・ 自動車のエレクトロニクス化が進むにつれ、その方向性は自動車の安全装備へと応用されるようになってきた。代表的なシステムとしては「車間距離感知システム」や「居眠り警報装置」、「タイヤ空気圧警報システム」などがある。現在は高級車のオプション設定など数車種の搭載に限られているが、自動車メーカーがこのような安全装備システムを積極的に搭載していくことを発表していることから今後の成長が期待される分野である。また、2003年9月に発売されたトヨタ「プリウス」では、設定されている「駐車支援システム」の反響が大きく、当システムがユーザーの自動車購入のきっかけとなっている面もある。消費者にとって安全装備システムの位置付けは高いところにあると思われる。

**デバイス**

- ・ 自動車の安全装備システムにはキーとなるデバイスがたくさん使用されている。その代表が自動車の「目」の役割を果たすCCDカメラやミリ波レーダーなどである。CCDカメラは人間の目では見にくい所を見つけてくれる役目を果たし、ミリ波レーダーは車間距離などの距離を見る役目を果たす。安全装備システムには欠かせない重要なデバイスであり今後大きく成長すると考えられる。
- ・ その他、コーナーソナーやセンサ類も欠かせないデバイスとして成長していくと考えられる。

## (C) 注目市場

### CCD車載カメラ

2002年実績31億5,000万円市場から、2007年90億円市場へと成長すると予測

- ・ 後方確認用、前方T字路確認用などとして、CCDカメラが搭載され始めてきた。以前からCCDカメラを搭載した自動車はあったが、ここにきて搭載が進んでいる理由は、CCDカメラの価格が半分以上に下がってきたことと、CCDカメラの機能が向上して、あったら便利な装備から信頼感のある安全装備へと変わってきているからである。
- ・ 自動車向けのCCDカメラは1台につき1個とは限らず、平均2～3個搭載されると予想される。この割合で販売される世界の新車全てに搭載されれば、携帯電話向けの需要の伸びに肩を並べる可能性も予測される。

### カーナビ向け通信サービス

2002年7万2,000件が加入、2007年には累計加入件数が120万件を突破すると予測

- ・ トヨタ自動車の「G-BOOK」搭載車が2003年8月より大幅に増えたのをきっかけに、ユーザーにとってカーテレマティクスが身近なものになってきた。日産自動車の「カーウィングス」や本田技研工業の「インターナビ・プレミアム」など大手自動車メーカーが積極的に開発を進めている分野である。
- ・ 一方でトヨタや日産と提携しカーナビ向け通信サービスを共有化する動きも見られ、全ての自動車メーカーの自動車でもカーナビ通信サービスを提供できる時代はすぐそこに来ている。

### 車間距離感知システム

2002年2万5,000台に搭載、2007年には35万台以上の自動車に搭載されていくと予測

- ・ 主に高速道路走行中に先行車との距離を感知して車間距離を一定に保ち、必要に応じて警告音でドライバーに危険を知らせるシステムである。その距離を感知するレーザーレーダーやミリ波レーダーが2,3年前と比べて安価になってきたため、高級車のオプションに限られていた搭載が小型車や大衆車へと拡大している。
- ・ 自動車メーカーも小型車クラスへの積極的搭載を発表しているので大幅な普及が期待できる。

### ミリ波レーダー

2002年200台に搭載、2007年には4万5,000台以上の自動車に搭載されていくと予測

- ・ 車間距離や先行車との相対速度などを高精度に把握できる安全装備デバイス。2002年末頃より、ホンダ「インスパイア」「アコード」、トヨタ「セルシオ」「ハリアー」などにオプションで搭載され始めている。
- ・ 単なる車間距離感知だけでなく、衝突が避けられない場合にブレーキ操作を支援したり、シートベルトを締めたりする「プリクラッシュセーフティ」への発展など、高精度に感知できるミリ波レーダーは今後安全装備のキーデバイスになっていくと考えられる。

## 調査分野

カーテレマティクスサービス、ITS関連機器/システム、デバイス市場、及びITS先進企業 の事例研究

<カーテレマティクスサービス>

- 1.カーナビ向け通信サービス
- 2.交通情報サービス
- 3.ETC/DSRCサービス
- 4.緊急通報サービス
- 5.車両盗難防止サービス
- 6.プローブ情報サービス

<機器・システム>

- 1.ITS関連車載器(5品目)
  - 2.安全システム(4品目)
  - 3.その他(3品目)
- 合計12品目

<デバイス>

- 1.安全技術関連デバイス(13品目)
  - 2.その他(3品目)
- 合計16品目

<先進企業の実例研究>

- 1.車両メーカー(5社)
- 2.情報通信/機器・デバイスメーカー(16社)

## 調査方法

各種統計資料と弊社データベースをもとに、専門調査員による参入企業各社への取材調査を行ってまとめた。

## 報告書の構成

- ・ 調査報告書は、総括編、個別市場編、先進企業の事例研究編の3編で構成されている。
- ・ 総括編では、まず現在までのITSの進捗状況をまとめ、次に今後の方向性を図式化し、2010年までの市場の見通しを予測し解説した。また、関連する省庁の取組みや法規制などをまとめ、国のITS普及施策を明らかにした。
- ・ 個別市場編では以下の品目について市場規模推移、マーケットシェア、開発動向、今後の方向性などの調査結果をまとめた。
  - (1) カーテレマティクスサービス6品目、
  - (2) 機器/システムでタイヤ空気圧警報システム、車内LAN、ナイトビジョンなど12品目
  - (3) デバイス・材料でミリ波レーダー、車載用CCDカメラ、画像認識など16品目
- ・ 先進企業の事例研究編では、車両メーカー5社、ITS取組み企業16社の商品開発動向や今後の方向性などをまとめた。

以上

「 2003年版 ITS関連市場の現状と将来展望 」  
- 次世代のITS関連技術とカーテレマティクスの方向性を探る -

体 裁 : A4判 286P

価 格 : 101,850円(本体価格97,000円 消費税4,850円)

調査・編集 : 株式会社富士キメラ総研 第1研究開発部門 I&T研究室

発行人 : 表 良吉

発行所 : (株)富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL 03-3664-5815 FAX 03-3661-5134

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL : <http://www.fcr.co.jp>